

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4471000234
法人名	株式会社 木村コーポレーション
事業所名	グループホーム初音の里
訪問調査日	平成20年10月31日
評価確定日	平成21年 1月 8日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレーション		
事業所名	グループホーム初音の里		
所在地	杵築市大字溝井字向1609 (電話)0978-63-2088		

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年10月31日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】 (平成20年10月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年11月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	210 円	昼食 420 円
	夕食	420 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要 (平成20年10月6日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	61 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人大生会衛藤外科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 有料老人ホームやデイサービスが併設された敷地には安全面に配慮した広大な庭があり、いつでも自由に散歩が出来る遊歩道もある。
- 2 防災に関しては、運営推進会議の意見をもとに、全職員が初期消火活動が確実に出来るよう、チェック票を作成して日常的に確認をしている。
- 3 終末期の対応については、約2年間話し合いや研修を重ねて方針を作り上げ、今年度から文書化して利用者、家族、職員全体で共有している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善点については、改善に向けての取り組みを管理者が提案し、部門長会議で話し合った上で、全職員へ申し送り実践している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価については、ミーティング等を通して職員の意見を聞きながら管理者が取りまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、区長、民生委員児童委員、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、事務長、職員で定期的に開催している。会議での意見で、防災活動での初期消火の重要性から、初期消火活動の実践へ向けた取り組みを実施している。また、地域の小学校との交流については、餅つきの餅を小学校へ配るなどしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会の開催を呼びかけたものの、参加者が少なかった為、現在は運営推進会議への参加を呼びかけており、防災についての意見によって、初期消火活動の実践へ向けた取り組みの実施などに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元交流が少ない地域性の中、今年度初めてホームで夏祭りを開催し、地元の方々も含め延べ200名程が参加する盛大なものとなった。また、年末の餅つきでついた餅を小学校に配ったり、別の小学校から運動会へ招待され、見学に行く等、ホーム自らが地域の方を巻き込み、交流の場作りを積極的に進めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私達はホームの役割を地域に発信して質の向上に努めます」を理念に盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や日誌に理念を掲示するとともに、法人の全体会議、部門長会、各セクションのミーティング時に理念の話をしているが、全職員への共有へは至っていない。	○	全職員が共通の目標へ向って支援の実践できるように、理念の共有に向けた取り組みの一層の工夫が望まれる。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元交流が少ない地域性の中、今年度初めてホームで夏祭を開催し、地元の方々も含め延べ200名程が参加する盛大なものとなった。また、年末の餅つきでついた餅を小学校に配ったり、別の小学校から運動会へ招待され、見学に行く等、ホーム自らが地域の方を巻き込み、交流の場作りを積極的に進めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の改善点については、改善に向けての取り組みを管理者が提案し、部門長会議で話し合った上で全職員へ申し送り、実践している。今回の評価については、ミーティング等を通して職員の意見を聞きながら管理者が取りまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、区長、民生委員児童委員、地域包括支援センター職員、運営者、管理者、事務長、職員で定期的開催しており会議での意見により、防災活動での初期消火の重要性から初期消火活動の実践へ向けた取り組みの実施、また、地域の小学校との交流については、餅つきの餅を小学校へ配る等実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に夏祭りの案内を出し、市職員は参加できなかったものの、ホーム周辺地区の方へ連絡してくれた。事務手続きなどでも相談している。また、市役所が窓口となり、市内の認知症事業所連絡協議会が発足した。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人全体の便り「初音の風」とグループホームの便りをそれぞれ2ヶ月毎(両方で毎月)発行し、必要な場合は、利用者一人に対して複数の関係家族への発送も行っている。金銭管理については、面会時に出納帳へのサインやコピーを郵送して確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催を呼びかけたものの、参加者が少なかった為、現在は運営推進会議へ参加を呼びかけており、防災についての意見によって、初期消火活動の実践へみけた取り組みの実施などに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での定期的な異動があるが、出来る限り最小限の人数になるようにしており、新人職員に対しては、しばらくの間職場内研修している。また、家族へは便りに職員の顔写真を掲載して連絡している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で教育委員会を設置し、毎月勉強会の開催をしている。また、施設外への研修も職員のレベルに応じて参加しているが、その内容の共有や実践が不足している。また、異動時や新人職員への認知症理解や対応の研修が実施されていない。	○	利用者への確実な支援を実施するためには、高齢者の介護だけでなく、認知症についての知識や対応についても十分理解する必要がある。そのためにも、異動時や新人職員に対して計画的な研修を実施するとともに、施設内外で学んだ研修内容を全職員で共有し、実施するための仕組みを工夫することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所介護保険係が中心となり、認知症事業所連絡協議会が発足し、職員の体験研修の実施を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に職員が利用者の自宅や入院先の病院を訪問し、顔見知りになっている。また、入居間もない利用者の自宅へ職員と一緒に荷物を取りに行く等して、安心して徐々にホームの生活へ馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時には、利用者が職員の肩を揉んでくれたり、言葉で上手く気持ちを表現しづらい利用者の気持ちを、できるだけ汲み取る心掛けをしており、一緒に笑い合うなど、共に過ごす関係作ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の状態変化を記録し、全職員で共有している。また、意向の把握が難しい利用者については家族や友人から面会時に情報を聞き取りしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族や関係者の意見を踏まえ、ケアマネジャーと各ユニットの介護職員で話し合いながら介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを毎週行い状態を確認しつつ、3ヶ月毎のモニタリング、半年毎の介護計画書の作成を行っている。ケアカンファレンスでの状態変化がある場合は随時の見直しをしている。また、家族へは事前の聞き取りと計画変更後の報告を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援や利用者の希望に添って、自宅訪問や個別の買い物など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望のかかりつけ医であり、嘱託員による往診を2週間に1回行っている。また、訪問歯科診療も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、研修や話し合い等を行いながら2年間の準備期間を経て、今年4月に「ターミナルケアの方針」と「同意書」を作成し、利用者、家族、全職員と方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応等は職場内研修で指導しながら、居室が廊下から見えないように暖簾をかけたたり、排泄の誘導の声掛け等、プライバシーに配慮した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	睡眠時間や食事の時間等、利用者の生活リズムに合わせた対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力に応じて、米を研いだり、盛り付け、配膳、食器洗い等を手伝ってもらいながら、利用者と職員が同じ食事を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきではあるが、利用者の状態や希望により、毎日でも入浴できる対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、あみ物、洗濯物を干したりたたんだり、掃除、カレンダーをめくる等、これまでの仕事や趣味を活かして出来ることを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内にある広大な庭に遊歩道があり、いつでも散歩ができる。また、週1回の買い物、土日のドライブ、月1回程度の外食やレジャー施設などに出かける等、外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠しておらず、利用者の状態や傾向を把握して、外出する方へは見守りや付き添い等しながら対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と協力して年2回、避難誘導訓練を実施している。また、運営推進会議での意見により、全職員が確実に初期消火できるためのチェック票をつくる等して訓練している。備蓄については車で10分ほどの同法人に保管している。	○	備蓄については、ホーム内で保管することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの健康状態に応じて管理栄養士が献立を立てている。1日あたり1400kcalの食事と1500ccの水分を目安にしており、それぞれチェック票で管理している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂テーブルの横に畳みやソファがあり、思い思いに過ごせる場所がある。また、玄関脇の廊下には職員が持ち込んだ子供用の着物を展示する等している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と話し合いながら、馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真を飾るなどしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 初音の里
(ユニット名)	ユニット1
所在地 (県・市町村名)	大分県杵築市溝井字向1609
記入者名 (管理者)	小川 キミヨ
記入日	平成 20年 10月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社全体の使命感にグループホームの理念:「仲良く楽しい毎日を過ごしてもらいましょう」という理念を加えて支援しています	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務日誌と玄関に理念を貼りだし日々見て取り組んでいます 全体会、部門長会、各セクションでのミーティング時など問題は理念を原点に話し合われています	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族にむけた新聞を毎月発行しています	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事(おせつたい)など、参加しています 散歩、買い物など職員同伴での外出で利用者に親しみを持って声かけをしてもらっています	
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りを実施したところ大勢の方々がみえました 次回から溝井地区、中ノ原区と協賛して開催するという話が持ち上がっています	○ 地区協賛の開催の実現を目指しています

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の為に地元の中学生や高校生を実習生として受け入れ又、職員も認知症の理解や接し方の勉強会等を行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をうけとめて改善に向けて取り組み地域との連携に力を注いでいます		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を会議で提案し、いま取り組んでいる内容についても報告して意見を出し合っている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所を窓口認知症事業所の連絡協議会が発足しました窓口は受診や住基ネットに関する事など気軽にに応じてくださっています		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	申し送りなどで職員への説明を行っている勉強会などを催し、職員の理解を深めるようにしている	○	外部講師をいれて勉強会を計画していたが今年には実施できませんでした、次年度は是非実施する予定です
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し高齢者に関する学習を行っている	○	虐待は理解出来ているが現実の場での行為はどうなのかのミーティングがなされていないように思える「職員が共有出来る」場の設定作りに取り組みたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明しています 「心配な事やほかに聞きたい事はありますか?」と尋ね、十分な理解が得られたことを確認しています	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の言葉や態度から、その思いを察する努力を心がけています 問題となるような症状が続く時は、週1回(水)のミーティングで検討します	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年度始め担当者は写真入りで自己紹介をします 金銭管理は面会時出納簿にサイン又はノートのコピーを送りしています	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も参加してもらい意見を出してもらっています、又手紙や電話で密に連絡を取り合っています	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年10月より職員主体の委員会活動が再編された 全体会議・グループミーティングを月1回行っている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の状態に合わせたローテーションを組んでいる、必要時はその都度調整している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職・異動以外の交代はありません 利用者家族には十分説明しています	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設外研修は部門長会議で対象者を選考しています 施設内研修は教育委員会で作成した年間計画を立て、実施している	○	勤務のシフトで参加者が少ないのが課題 折角の機会なので開催の日時など改善工夫したい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市役所介護保険係が窓口となり連絡協議会が発足した、又職員研修をお互いに交換、夏祭りは職員利用者共に交流できた	○	管理者は管理者、介護職は介護職で交流の場があっても良いと思っている
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員同士の人間関係に耳を傾け話し合いは個別に聞くようにしている、休憩時間はあるものの入居者様が見える場所にあり、ストレスが軽減されにくい	○	休憩場所が入居者と離れて確保されるとよい
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	資格を取得したら、それに応じた資格給がつくようになっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前面談で生活状態を把握し本人の求めている事や不安 苦しみ困っている事を把握して信頼関係に努めている		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族の苦勞や今までのサービス利用状況をゆっくりお聞きし、今後の対応に反映させています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、話し合いの中で他のサービス利用、事業所の利用を勧めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人や家族に見学に来て頂く スタッフが自宅に出向き、顔見知りになって頂く		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室にこもらず共同スペースで過ごす様にして頂き、昔話を聞いたりレクリエーション等を一緒に行いながら学ぶ事も多い		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	広報誌の配布 家族、職員の思いを伝え合っている(面会時) きめ細かな情報の発信で十分な協力関係が出来ています		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めている 状態の報告・相談をしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を尊重し、関係の継続に配慮しています		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室にこもらない様、声かけ 入居者様同士の関係を把握 お茶や食事の時間は職員も一緒に会話を持つ様になっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設等へ移られた方へ入居者様と一緒に面会に行っている、又退居された方にイベント情報など発送しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から把握 困難な方については家族等から情報収集をしている 知人・友人の面会時にも収集しています		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から把握 家族や周辺の方から情報を得ている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメントを一部取り入れて出来ていた事や場合によっては出来るかも知れない事等の把握に努めています 必要時医療機関に情報提供をお願いしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係者の意見を聞き介護計画を作成 ケアマネージャー介護職員によるアセスメント 担当者会議、モニタリング、カンファレンスを行っている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直しを行う 介護記録により状態変化を把握 介護計画の見直しは定期、必要時、臨時に行っている (モニタリングは3ヶ月に一回、介護計画は6ヶ月に一回定時としてあります)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週に一度カンファレンスを実施し、気づきや工夫等話し合い、カンファレンスノートに記録して情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算あり 通院の送迎支援をしている 月に一度の外食会実施		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当該地区長や民生委員、包括支援センターの方々、ご家族を交え会議を行っている	○	入居者様に楽しく過ごして頂けるよう、ボランティアの方々とつながりを持ち、レクリエーションに活かせるようにしたい 12月に地域の方々にも参加していただける避難訓練を計画している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容は定期的に来てもらっている クリーニングも必要時に利用している パン屋さんが週に1回来ます		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	項目40に記述しているように会議を行っている 市役所介護保険係は気軽に相談を受けてくれる 成年後見制度を現在利用している方はいないが、必要があれば、関係はスムーズにとれる状況にある		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望されるかかりつけ医に定期的に往診に来ていただいており、また急変時にも対応していただける体制作りができています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医を講師に招き、認知症について学び、また質疑応答の時間を設け、困難事例等の専門的なアドバイスが受けられ、職員の認知症に対する理解力の向上を図っている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者様に変化が見られる場合や、職員の不安等を看護職に気軽に相談できる体制作りが出来ている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された入居者様の見舞いを兼ねて、病院関係者との連携を深め、退院時には、直接連絡やサマリー等を通じてADLに即した対応を行っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の意見を交えて、ご家族との話し合いを持ちご理解をいただいている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携を保ちながら、終末期介護の研修等に参加し、支援体制の強化に努めている	○	今年2名の方が亡くなられた、終末期における職員の研修がさらに必要だと考えている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人を交えて、関係者間で情報交換を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の入り口にのれんを掛けてプライバシーを確保し、声をかけて入室している 排泄の失敗時他の人に気付かれないよう気配りをしています	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	外食の時はメニュー表を見て、入居者様自信が好きな物、食べたい物を選ぶ楽しみを支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムにそって体調や希望を踏まえた支援を行っている 睡眠が十分でない時は、ゆっくり休んでいただいたり、食事の時間を調整した支援を行っている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度理容院の方が来設されるので希望される方は利用できる また、職員がヘアカットを行うこともある 髪飾りを付ける楽しみ、髭剃りなど身だしなみを支援している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な食器を使っている 湯のみ、箸、茶碗は個別にしている 盛り付けや配膳、食器洗いなど入居者と職員と一緒にしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べてみたい物を一緒に手作りし楽しめる支援を行っている 週に一度の買い物で好みの物を購入している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄チェック表を使用し尿意のない方も声を掛けて誘導している。 失禁された場合、気持ち良く着脱ができるよう対応・言動に十分注意をしている	○	安易にオムツは使用しない、誘導で綿パンツが当方のモットーです
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は13:00～16:00 1日おきの入浴が必要に応じて(肌の状態)、または希望されるかたは毎日の入浴を支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	使い慣れた布団や枕を持ってきてもらう 眠れない時は話をして気分転換をはかってもらう また、昼間の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器を洗う、掃除をする(ほうき、モップ)、カレンダーをめくる、食事の盛り付けを手伝う、金魚を飼う、などの一人ひとりの生活レベルに応じた役割、楽しみごとを決めている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得た方は個人で管理されている 管理できない方は預かっている 買い物した時など必要に応じて出している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、外食、レジャー施設へ出掛け、地域にふれた楽しみを支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御家族と過ごしたい、食事をしたいなど入居者様が希望される時は御家族への協力を依頼し外食・墓参りなどしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状と暑中見舞いや手紙を出す為の支援を行っている 日常的に、電話や手紙を出せるようになっている 贈り物が届いた時電話口にも本人も話せるようにしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の都合の良い時間帯に訪ねて来ていただけるように配慮をしている 家族とゆっくり過ごせる時間作り、食事を一緒にとったり、泊まったりできるように支援している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当方では拘束は皆無と思っている「ロックをかけていませんか」を合言葉としてカンファレンスノートに貼り共有認識の向上を図っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中手動でオープンにした、夜間施錠している 入居者一人ひとりの癖や傾向をつかんで、声かけや対話、見守り、一緒に付き添う等の連携プレーに努めている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で記録等の事務作業を行っている 夜間は、1時間毎に入居者の様子を確認するとともに、起きた時は直ぐ対応できるよう居場所を工夫している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤などの保管場所は厳重に管理されている、全てを取り除くような事は無く、入居者の状況によっては、ケースに応じた対応をしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている 事故発生時には、事故報告書を作成し、原因・予防・対策について検討し、家族にも説明と報告を行っている 職員の全体会でも検討している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月一回の勉強会に参加し習得するようにしている 夜間時の緊急対応について、マニュアルを整備し、周知徹底を図っている 行政関係者、消防署の協力を得て救急手当、蘇生術の訓練を実施している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている いざという時に慌てず確実に避難誘導ができるように職員と利用者が一緒に訓練を繰り返している	○	地域の方々が高齢化している、今後具体的な連携策を話し合っていく予定
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて把握しており家族等に現状を伝え対応策と一緒に検討している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、変化が見られた時はバイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている 状況により医療受診につなげている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個別ファイルから入居者の服薬内容を把握しており、服薬時には本人が服用できているかの確認をしている。 薬の処方の変更されたり、本人の状態変化が見られる時は、詳細な記録を取り、医療機関との連携を図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や運動を働きかける事で、自然な排便ができるよう取り組んでいる 繊維の多い食材や、乳製品を摂りいれている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている 入居者の気持ちに配慮しつつ一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いをしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が糖尿病や通風の方など個々に合わせて食事など配慮しバランスの取れた食事を出している 一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量を一日全体を通じて把握している	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルがあり、それに基づき予防や対応がされている (毎週月曜日にホール周りのアルコール拭きなどを行っている)	○ 環境対策を徹底し集団感染の発生はみられなかった、今後も同様に万全の措置をとっていきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ホール内の清潔や衛生を保持している (食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機など) また、冷蔵庫の管理は職員により管理している	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	散歩時にすぐに座ってくつろげる椅子を設置している 玄関前には草花を植え家庭的にしている 入居者様と一緒に草花を作り季節感を味わっている	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のスペースが有り、テーブルと椅子など共用部分を家庭的にしている (横になったり自由に過ごす事が出来る)	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり畳の部屋でテレビを見たり思い思いに過ごされている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し家庭で使用していた生活用品を入居時にもってきている(家族の写真など飾っている) 一人ひとりに合わせた居室作りをしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各室に温度計を設置 換気扇、ファンを設置(ホール)室温(27度)を基準、適宜調節をしている ホールと居室の上よみがないよう換気に努めている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下がみられる入居者様の為に、居住場所の壁全体に手すりを設置している 入居者様の状況を仔細に観察している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前に表札をつけている トイレの目印など工夫し間違いが起らないように配慮している 個人の持ち物には名札を付けて分るようにしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	西側の玄関前に花壇があり四季折々の花を育てている 草取りや水撒きを入居者と一緒にする 建物の裏側に遊歩道が完成した、天気の良い日は広い敷地を散歩コースとして楽しんでいる		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年初めて夏祭りを開催したところ地域の方が大勢見えて抽選会の団扇が足りなくなりました。来年から溝井地区、中ノ原区と協賛で開催したいとレクリエーション委員が今から胸をドキドキ・ワクワクさせながら計画しています。入居者の加齢に伴ない外出の機会が少なくなりましたが盆踊りの輪の中で掛け声を出して最後まで踊り続ける姿に圧倒された一時でした。又、春から工事をしていた遊歩道が完成しました、全長1kmの静かで安全な素晴らしい散歩コースです。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム初音の里
(ユニット名)	ユニット2
所在地 (県・市町村名)	大分県杵築市溝井字向1609
記入者名 (管理者)	小川 大輔
記入日	平成 20年 10月 6日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社全体の使命感にグループホームの理念を追加して「仲良く楽しい毎日を過ごしてもらいましょう。そしてご家族に安心を。」という理念を作り上げています。	
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念作成時に管理者と職員で話し合い作成し、玄関や業務日誌に記し、共有を図っている	
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関へ理念を記し面会時見えるようにしたり、ホーム便りを活用している	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時は初音の里のユニフォームを着用し大きい声で挨拶をするように心掛けています	
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りを実施して、地域住民も招待し行いました。ボランティアの踊り子さんも沢山見えました。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市が行う介護教室に参加して、認知症ケア啓発に努めている 人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている 外部評価の結果は改善の指針としている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や、懸念事項について、経過を話し合い、改善していくようにしており、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題が発生した時、市役所福祉課や介護保険係りに相談すれば気軽に教えてもらえ大変助かっています		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている 対応が必要と思われる入居者様がいる場合は、随時職員に説明、アドバイスをを行いながら入居者様の支援に結び付けている	○	外部講師を入れて勉強会の予定であったが実施できなかった、 職員の意識をたかめる意味もあり次年度は実施予定
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項、重度化時その他資料で十分説明します、その後さらに「心配な事、聞きたいことはありませんか?」と確認しています	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今日の外出先、今日のおやつなど入居者様の思いを引き出し日々の活動に取り入れています 又、その時々入居者様の普段と違う行動は週一回のミーティングに提案し全員で共有しています	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に瓦版を発行し、金銭管理は出納伝票に記入しご家族に面会時サインをいただいたりコピーを発送しています	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している 運営推進会議等で家族の意見を聞く場を設けている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会を3ヶ月に1度に設定し、全体会がない月は各委員会で集まり、職員全員で取り組んでいる	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、起床時や就寝時、入居者様の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動ある時は利用者への説明、運営推進会議時や、初音便りで情報を提供しています	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は部門長会議で対象者を選考しています 施設内研修は教育委員会で年間計画を立て実施している	○ 教育委員会が主体となり勉強会や、外部講師による講習を予定している 参加者が少ない点が課題
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設と相互訪問を実施し、サービスの質の向上を図っている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者からは、職員のストレスを軽減するための工夫などは見られない ミーティングなどでも職員の意見など取り入れてもらえない 職員の事を考えてほしいと思っている	○ 入居者様に気をつかわなくてすむ休憩場所があったらいいと思う
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格を取得したら、それに応じた資格給がつくようになっている	○ 職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくり
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必用な相談者には可能な限り柔軟な対応を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の納得をスムーズにするために、家庭で使用していた品物等家族と相談しながら工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で共感、傾聴を心掛けています 菜園で出来たものの収穫時は一緒に大喜びをしています		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事に誘ったりし家族で過ごせる時間を作り共有できる時間作りができています	○	今後も続けて共有できる時間作りをしたいと考えている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事業所での暮らしや介護にも家族が問われる場面や機会づくりをしている 面会時ご本人と家族がゆっくりお話できるよう潤滑油になるよう心掛けている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や調度品を取りに帰った際に近所の方と会話し、関係を維持している 友人の面会時には入居者の近況を伝えたり、友人から入居前の話を聞いたりして又の面会を楽しみにしています		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者様同士の関係は継続していくように気を配っています おかげさまで孤立している利用者様は1人も居ません		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られた方にも初音だよりを発送しています 以前特養に行かれたご家族が友達の親を当方に紹介してくれるケースもありました		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で入居者様の意向を尊重できるようコミュニケーションに努めている 家族からも情報収集しています		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人自身やご家族、知人等から来設時、把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のアセスメントを一部取り入れて、出来ていた事、言っていた事を記録に残し介護計画にいかしています		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、医師、ケアマネージャー、栄養士、介護職員で介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回、計画の見直しは6ヶ月に1回、定期的に行っている また、必要時は臨時に見直しをする	○	モニタリング3ヶ月に1回介護計画6ヶ月に1回が変化がない時は見過ごされやすいので徹底していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェックで済むものはバイタル表に個別計画としてチェックをしている。 他はフォーカス記録としフォーカスが何度も繰り返されている時はプランを新たに追加するようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算あり 通院の送迎支援をしている 月に一度の外食会実施		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当該地区長や民生委員、包括支援センターの方々、ご家族を交え会議を行っている	○	入居者様に楽しく過ごして頂けるよう、ボランティアの方々ともつながりを持ち、レクリエーションに活かせるようにしたい 地域住民や消防署の方を交えての避難訓練を予定している
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容は定期的に来てもらって利用 クリーニングも必要時に利用している パン屋さんが週1回来ています		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターや成年後見制度がスムーズに連携協働出来る関係にある		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連携をとりながら受診が必用な時は支援している 事業所とかかりつけ医の関係は何ら問題なく出来ています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今年2名の方が亡くなりました 終末期ケアに伴う職員の心のケアを今後はしていく必要がある</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の失敗、衣服の勘違い、その他、いろんな場面での失敗を正す時他の利用者にさとられないような気配りをしています	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食べたいおやつ、衣服の買い物、同伴し意思表示できる方は自分で選んでもらっている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない 一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている 自ら決定がしにくい入居者様には一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援を心掛けている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け等入居者様と共に行い、職員と入居者様が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている 誕生日会等での食事作りを利用者様としている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週1回の買い物時に本人の望む飲み物、おやつなどを購入し、時間を見ながら、それらを楽しめるように支援している	○ 行事時に少しのお酒は取り入れているが、今後は一律でなく希望するものにした (例えばビールとか日本酒とか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意のない方にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している	○	安易にオムツに移行する事はありません ミーティングで十分検討して対応しています
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めず、入居者様のその日の希望を確認して入っていただいている 仲の良い方同士は一緒に入っている	○	職員のローテーション等で困難な場合もあるが、夜間に入浴出来るように取り組んでいきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている 一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう願っている、又はできそうな仕事をたのみ、感謝の言葉を伝えるようにしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もいる 家族よりお金を預かり事務所が管理している人でも外出時のお金は自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出かけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家から「○○を持ってきたい」等の時、予定外の配車計画を立て 他の利用者もドライブを兼ねて外出する等の支援をしている 家族と「うどん」「回転すし」を食べに行く方もある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキを用意し近況を伝えられるよう支援している 希望があれば電話の取次ぎをしている 遠くに居る子供さんから贈り物が届いた時、本人も電話口で話せるようにしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族関係、知人関係を把握し、プライバシー保護に努め、訪問者が気づかないように配慮している また、家族が宿泊でき、一緒に食事ができる		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当方は拘束は皆無と思っている 教育委員会が主体となって勉強会を行っている ミーティングや申し送りで確認、点検を行っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中ユニット1の玄関を開放し、ユニット2から廊下を経て自由に出られるようにした 夜間は玄関・ケアマンションとの境に鍵をかけている 裏庭には自由に入出りできるよう鍵はかけていない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時、入居者様の居場所を把握しており、すぐに対応出来るよう見守りを行っている 夜間は1時間おきに巡視を実施している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	シャンプー、リンスなどは分りやすいように明記している ハイターなど誤飲の恐れのあるものは目隠しをして保管している		保管場所には鍵をかける等の工夫をし利用者様が誤って触れたりする事のない様に努めている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告の検討(各セッションごとに) リスクマネジメント委員会を設置し、啓発に取り組んでいる ヒヤリハット事故報告書の記録・管理が行われている 全体会での検討もなされている	○	マニュアルを再度作成中、完成を目指している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者様の急変や事故発生に備えたマニュアルがあり勉強会を通し知識の習得に（連絡など）努めている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練の実施 年2回内1回は消防署指導で実施 運営推進会議などで地域の方へ呼びかけを行っている	○	地域の方が高齢化し実際の場合役立てるかが今のところ課題 今後具体的な内容にしていく予定
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりの状態に応じて、その都度連絡をとっている 対策は家族と共に考えている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、記録している 変化があればケアマネに報告し、職員同士情報を共有している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを見る事ができ、理解に努めている 入居者様の状態を観察し、服薬の支援を行っている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	よりこまめな水分補給をしてもらう様に声掛け工夫をしている 排泄チェック表を活用することにより排便状況を把握し確認している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、義歯洗浄の支援を行っている (一人ひとりの状態に応じた) 義歯は食後以外に1回/w洗浄剤を使用して綺麗にしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し把握している 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に生かされている 定期的に栄養士が食事状況を観察に訪れる	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、実施されている 定期的に手すり等の消毒を行っている	○ 環境対策を徹底し現在まで集団感染の発生はなかった 今後も注意を払っていく予定
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に1回、冷蔵庫内の食品点検を行い、衛生管理をしている 調理用具や布巾はハイターで消毒している	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はいつも綺麗に清掃し、くつろげるように椅子を配置している また、玄関前の花壇に季節の草花を植え手入れをしている	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の安全性を考慮し、季節を感じられるようにしている また、入居者様の意見を取り入れ工夫している	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活にめりはりがつくよう食事する場、作業する場、テレビを見たり、だんらんでできるよう配慮している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時自宅で使用していたじゅうたん、小さなテーブル、鏡台などを持ち込んでもらっています 必用な時本人の見立てで購入している 季節の花を飾ったり、外出時の写真を置いたりしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、フロアの温度調節と換気は定時及び必要時実施している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット玄関のスロープ、トイレの手すりを再度追加した(今までであったものに)安全な環境に重点をおいている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	例えば居室で放尿があったケース、二度同じ症状がみられたら検討・対策がたてられている 本人もすぐ明るさをとりもどしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム玄関に自由に持ち運びできる椅子がある 動ける方は花や菜園の手入れをする 動きの悪い方は椅子にかけて見学し楽しんでいる 裏庭が完成し、天気の良い日は散歩をしている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「みんな仲良くここで一緒に暮らそうよ、そして家族に安心を！」が私達のモットーです。最近では特に入居者様の思い家族の思いにそって介護を進めていく事に重点をおいています。ホームでは症状の進行や加齢による身体機能の低下で職員主導になりがちです。そのような中でおやつ希望を取り入れたり「今日のお出かけ先はどこにしようか？」が決まっています。外食のメニューもジョイフルからメニュー版を借りてきてご自分で選んでもらいます。毎日一緒に生活していると入居者様同士の関係作りも大切でお互いの思いやりに心打たれる事もしばしばある昨今です。裏庭が完成天気の良い日は散歩に利用したりしています。初音の里では初めての夏祭りが今夏行われ、お祭りには利用者様のご家族、ボランティアの方、地域住民の方、同市内の他のグループホームの利用者様たちも参加していただき大変喜んでいただき盛大に行われました。